

## 当月のS&amp;P MLP 指数の動き

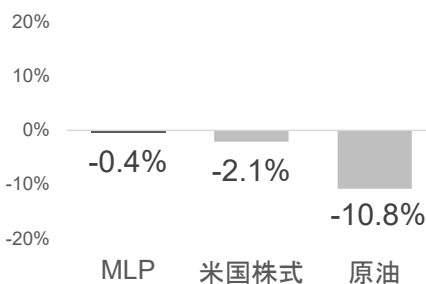
12月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比-2.0%と2か月ぶりの下落となりました。

11月末のOPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラス会合において協調減産拡大が合意に至らなかったことが嫌気され、原油先物が月初から下落基調となる中、MLPも軟調な展開となりました。中旬以降は、原油価格の反発や、2024年の米利下げ期待が広がる中、米国株式市場が上昇したことなどを背景にMLPは堅調な推移となったものの、月前半の下落を取り戻すには至りませんでした。

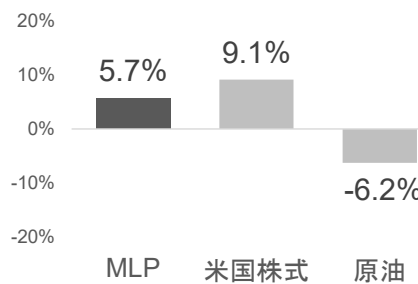
## 過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

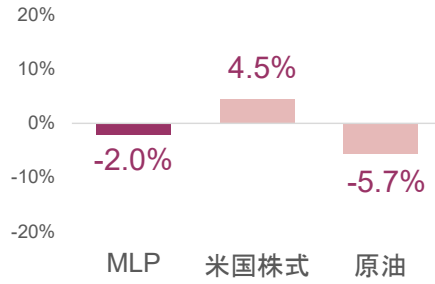
## 2023年10月



## 2023年11月



## 2023年12月



MLP:S&amp;P MLP 指数、米国株式:S&amp;P 500 種指数、原油:WTI

## 主要指標の動き

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
<b>S&amp;P MLP 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	7,384.81	7,537.74	7,162.25	6,010.58	-2.0%	3.1%	22.9%
プライスリターン	1,500.43	1,531.51	1,485.69	1,326.34	-2.0%	1.0%	13.1%
<b>S&amp;P 500種 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	10,327.83	9,879.02	9,246.74	8,178.02	4.5%	11.7%	26.3%
プライスリターン	4,769.83	4,567.80	4,288.05	3,839.50	4.4%	11.2%	24.2%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,419.77	1,420.08	1,525.61	1,438.86	-0.0%	-6.9%	-1.3%
プライスリターン	640.05	641.28	694.19	672.34	-0.2%	-7.8%	-4.8%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数 (米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,686.38	1,535.14	1,453.26	1,482.22	9.9%	16.0%	13.8%
プライスリターン	338.75	310.66	295.09	310.67	9.0%	14.8%	9.0%
<b>米国ハイイールド債 (ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス (米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,590.32	1,533.76	1,485.42	1,401.68	3.7%	7.1%	13.5%
プライスリターン	68.29	66.21	64.84	64.21	3.1%	5.3%	6.4%
<b>米国10年国債利回り</b>							
	3.88%	4.32%	4.57%	3.87%	-0.44	-0.69	0.01
<b>原油 (WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>							
	71.65	75.96	90.79	80.26	-5.7%	-21.1%	-10.7%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>							
	2.51	2.80	2.93	4.48	-10.3%	-14.2%	-43.8%
<b>米ドル(対円)</b>							
	141.04	148.20	149.37	131.12	-4.8%	-5.6%	7.6%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

## 当月の出来事いろいろ

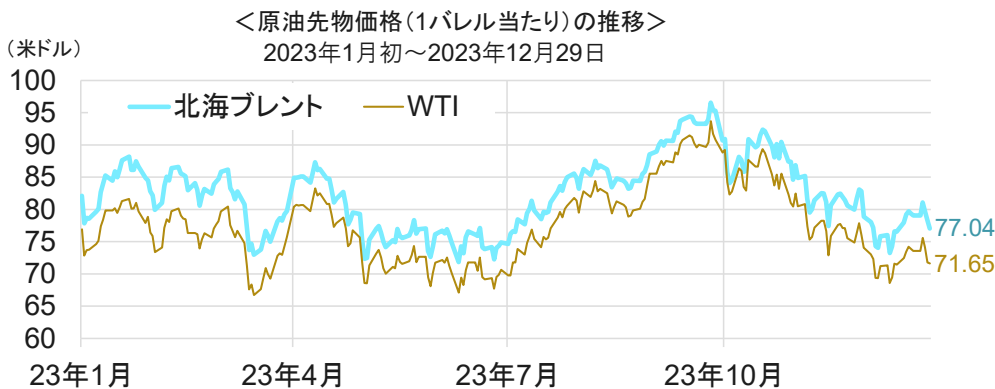
- 6日に発表された民間集計の調査で11月の米雇用者数が予想に反して前月から伸びが鈍化した。欧米の国債利回りが低下し、米10年国債で一時、4.10%台と、9月初め以来の低い水準となった。原油先物は、米週間統計でガソリン在庫が予想以上に増加したことを受け、大幅続落した。
- 12日に発表された11月の米消費者物価指数は、全体で前年同月比+3.1%と、前月から0.1ポイント低下、コアでは+4.0%と、前月から横ばいだった。ともに予想通りながら、インフレ鈍化ペースが弱まったことなどから、2024年の利下げ観測が一部でやや後退した。原油先物は、米利下げ観測の後退などに伴って売られ、WTIで1バレル=68米ドル台と、6月下旬以来の安値で引けた。
- 米FRB(連邦準備制度理事会)は12~13日に開催したFOMC(連邦公開市場委員会)で、政策金利を3会合連続で据え置くことを決定した。FRBのパウエル議長は会見で、「政策金利は今回の引き締め局面のピークに達したか、その近くにある」とし、「追加利上げの可能性は低いと考えるが、排除したくない」と述べたが、今回、利下げについて議論したことを認めた。これを受け、13日には、2024年の利下げ観測が強まり、国債利回りが低下したほか、主要株価指数は続伸した。また、米週間統計で原油在庫が予想以上に減少したことを受け、原油先物が反発した。14日も続伸し、WTIが70米ドル台を回復した。
- デンマークやフランスの海運大手が紅海経由の運航の再開・増加を相次いで発表したことを受け、原油の供給懸念が後退し、原油先物は月末にかけて下落した。

## 今後の注目点

- 1月から、2023年10-12月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

## 2023年の原油価格の動向

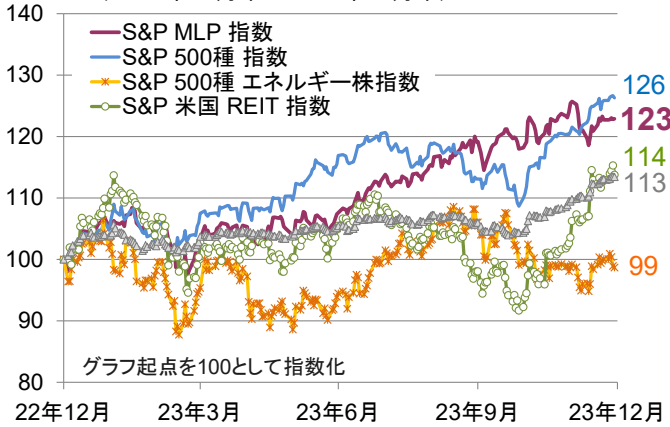
2023年の原油先物は、米国における金融不安や景気後退懸念などを背景に春先にかけて大きく下落しました。その後、米国景気の底堅さや産油国での減産などを理由に夏頃にかけて上昇基調となり、9月下旬には年初来高値を付けました。しかしながらその後は、世界的な景気減速懸念の拡がりを受けて下落基調となりました。また、11月末のOPECプラス会合において、協調減産拡大が合意に至らなかったことも年末にかけての更なる価格押下げ要因となりました。



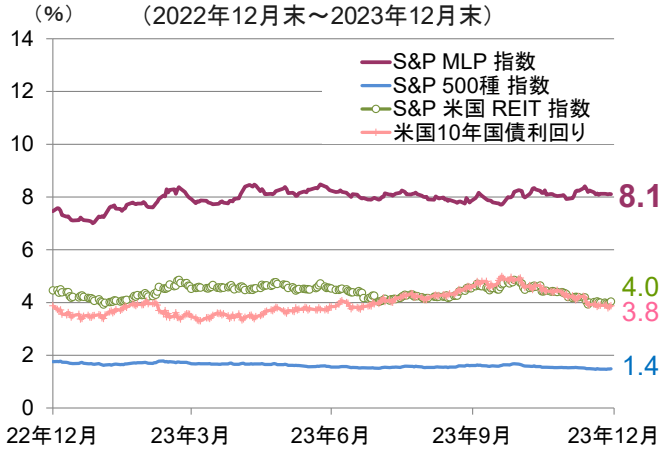
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)  
(2022年12月末～2023年12月末)



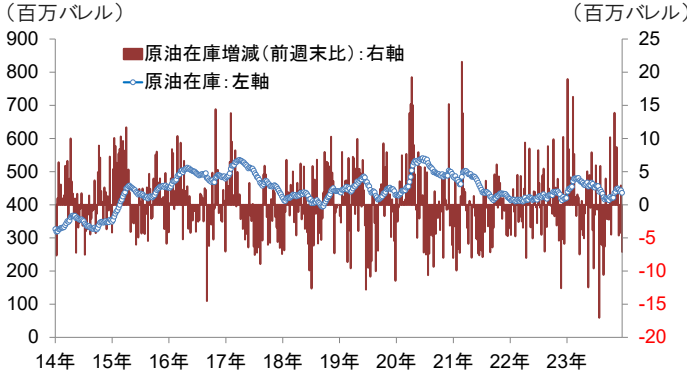
■過去1年の各資産の利回り  
(2022年12月末～2023年12月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。  
※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。

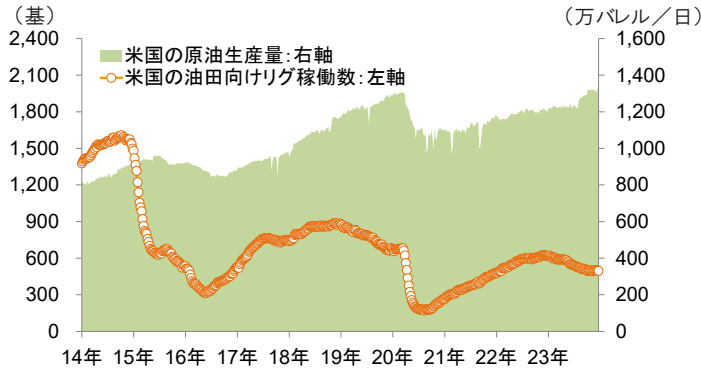
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2023年12月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2023年12月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2023年12月末)



\*米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)  
※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。